

令和6年3月31日

愛国学園保育専門学校
校長 船田鈴子 殿

愛国学園保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和5年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①野崎 郁弘 (パブリックコンサルタント株式会社専務執行役員 元会計検査院官房審議官 元青山学院大学客員教授)
- ② 谷 聖司 (上一色幼稚園園長)
- ③森田 育栄 (卒業生 なでしこ保育園園長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第5回委員会 令和6年3月18日 (会場 愛国学園保育専門学校 会議室)

3 学校関係者委員会報告 別紙のとおり

別紙

I 重点目標について

1 重点目標について

本校は「親切正直」を校訓とし、職業人として必要な知識・技術を有し、もって地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。令和5年度においては、5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」に移行したとはいえ、引き続き新型コロナウイルス感染症に伴う影響が継続している中で重点目標に掲げた事項について、各目標に沿った活動を着実に実施している。自己評価報告書には、重点目標と計画の達成状況が的確に示されており、適切に評価されている。このような取組は今後も継続的に実施していただきたい。

各重点目標に関しての意見は、次のとおりである。

重点目標1の教育、研究における事項について、計画に従い適切に実施されていることは学校側の説明で理解できた。重点目標・計画の達成状況も、個別の各事項の目標に対する達成状況と取り組むべき課題について、その対応関係が明確に把握できるように構成・記述の改善が図られている。引き続き、重点目標・計画の達成に向けて活動されることを期待する。

重点目標2の学生の募集活動に関する計画について、新型コロナウイルス感染症に伴う影響を受けていることはやむを得ないものと認められるが、そのような中で課題をしっかりと認識し、AO入試を導入するなど積極的な対応に努めている姿勢は高く評価できる。学生の募集、広報活動については引き続き厳しい状況ではあるが、幅広い志望層の掘り起こしを図るなど定員の確保に向けた努力を継続されたい。

重点目標3のその他の事項については、新型コロナウイルス感染症に伴う影響が残る中で、実施できなかった項目に代替する対応策を適切に実施しており、学校側の積極的な対応姿勢がみてとれる。

II 各評価項目について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

教育理念である「親切・正直」「女子の職業教育」は明確にされており、それに基づく方針や目標設定があり、目標達成のための具体的な取り組みが行われている。評価委員会でのヒアリングからは、質の高い保育を目指し、自ら考え、実行できる人材を育成していくという、先生方の学生への育成指導に対する真摯な姿勢と熱意を感じ取ることができた。引き続き、社会及び関連業界等のニーズに適合した優秀な職業人の育成を目指して、これらの取り組みの中で見つかった課題への解決にむけて、より具体的な対策案を立案・

実施していくことを期待する。

基準2 学校運営

運営方針を定型的な文書としては定めていないが、理事長等の運営方針などについては適時に教職員に伝えられている。また、事業計画は明文化され、全教職員へ周知徹底されており、歴史ある学校法人として組織的運営が適切に行われている。また、意思決定システムについては明確に確立されている。

人事・給与制度については、引き続き良質な教員を確保するための処遇改善を期待する。情報システムについては、費用対効果に配慮しつつ、社会全体として ICT 環境整備が進んでいる中で一層の充実を図るよう期待する。

基準3 教育活動

理念・目的・育成人材像に沿って教育課程の編成が行われ、計画的な教育活動が行われている。また、卒業時に幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の二つの資格を取得することを踏まえ、社会及び関係業界等の人材ニーズに沿った教育活動を行っていることが窺える。

また、資格要件を備えた教員を確保することの重要性を認識し、学会、研究会等への参加を奨励し、研究紀要を作成するなど、教員の資質向上への取り組みを積極的に行っている。

基準4 学修成果

卒業生全員が資格・免許を取得し、就職率は、100%となっているなどの状況は、良好な学修成果の帰結として大いに評価できる。

また、卒業生の社会的評価（卒業生の就職先の評判など）を整理、分析して、その結果を教育活動の改善に取り組むとする姿勢も意欲的であり、大いに評価できる。

基準5 学生支援

校風として家族的であり、学生を大事にしていることが見て取れる。学生の健康管理は引き続き重要な課題となっているが、このことを十分に認識して適切な対策を整えていることは評価できる。なお、本校は、直接の授業を重視する理念を継続していることから、今後とも万全の体制を継続していただきたい。

新型コロナウイルス感染症に伴う影響により、課外活動としてのボランティア活動に制約が生じているのはやむを得ないが、本校のボランティア活動は高い評価を受けているとのことなので、状況が改善するようなら、すみやかに実施されることを期待する。

中途退学率の低減に関し、きめ細かく支援体制を強化している努力は評価するが、今後

ともさらに一層の工夫を期待する。また、入学後に進路上のミスマッチに気づく学生に対する支援の在り方について、引き続き検討されたい。

基準6 教育環境

施設面・設備面については、全般的に美しく清潔な環境が維持されていることは特筆に値し、高く評価する。施設等のメンテナンス体制も整備されており、施設・設備等は有効に機能している。なお、インターンシップ制も現状では実施が難しいことは理解するが、最近の社会の動きを見ると将来的に検討してもよいかもしれない。

基準7 学生の募集と受入れ

ホームページを充実させるなど学生募集活動は適切に実施されており、いろいろと工夫、努力がなされていることは確認できたが、ここ数年、定員割れが続いていることは事実なので、その原因を分析し、課題を抽出して改善に取り組むことは大事であると思料される。引き続き努力されることを期待する。学納金の額は妥当と思われる。

基準8 財務

学園全体の財務基盤は安定している。ただし、保育専門学校単体での収支はマイナスとのことなので、経常費補助金のある大学等と異なり、学生の納付金が収入の主体である本学校の特性からみても学生の確保は喫緊の課題だと思料される。学校側の課題に取り組む姿勢は高く評価するが、引き続き、課題の把握、解決に向けた努力を期待する。

基準9 法令等の遵守

常に、関係法令に関する最新の情報をチェックし、それに合わせた校内の諸規則を遵守しつつ、必要な改定を行うなどの取り組みが行われている。また、ホームページを充実し、必要な情報を公開するなど状況に即した対応が図られている。

引き続き、法令等を遵守し、適正な学校運営に取り組んでいただきたい。

基準10 社会貢献・地域貢献

新型コロナウイルス感染症に伴う影響から未だに制約が多い中ではあるが、学校の教育的資源を通して、社会貢献、地域貢献に努力している。国際交流は、学校の性格上無理があるのは理解できる。有意義な活動を続けていることが周知されれば学生募集にも良い影響があると思料されるので、ホームページ・SNS等でその取組を紹介していることは高く評価する。引き続き、対外的な認知に関し、一層の工夫に務めることを期待する。

以上